

## ⑪道の駅「あがの」

受賞機関 国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所  
阿賀野市

**キーワード** 子育て世代に向けた憩いの場

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

定住・移住促進施設を兼ね備えた道の駅整備。ファミリー層などのターゲットを明確にした施設配置や案内機能の充実を図るほか、消雪パイプ、浸水対策、コンクリート舗装によるコスト縮減など、立地・利用環境を踏まえた整備を実施した点や、想定1.5倍の利用につながっている点が評価された。

### 1. はじめに

阿賀野市は、新潟平野のほぼ中央に位置し、南側に大河阿賀野川が流れ、東側に標高1,000m級の山々が連なる五頭連峰を背にして形成された扇状地に6,500ha余りの水田が広がる穀倉地帯である。

また磐越自動車道と国道49号が南北に、国道460号と290号が東西に走り、県都新潟市に隣接した自然環境豊かな地域である。

道の駅「あがの」は国との一体型手法により整備し、令和4年8月4日に新潟県で42番目の道の駅としてオープンした。

### 2. 事業の概要

道の駅「あがの」は、阿賀野市総合計画、阿賀野市道の駅整備検討委員会の検討結果を踏まえ、平成29年6月に公表された「阿賀野市道の駅基本構想」に基づき、国道49号水原バイパス整備事業に併せて、『白鳥の空・恵みの大地が織り成す阿賀野市の交流・賑わい・未来交差点』を整備コンセプトとして、阿賀野市の入り口である京ヶ瀬地区に整備されたものである。

バイパスに隣接する立地を活かし、「集客・交流」、「情報発信」、「物流」、「防災」の広域的な拠点施設として整備されており、移住・定住促進のため、観光案内所に移住・定住案内窓口を設けるとともに、子育て世代に向けた憩いの場として、遊具を備える広場、キッズスペースやベビーコーナーを整備している。

地域振興施設としては、地方創生に向け、地域資源の活用と交流を図るとともに、地域情報を発信する『にぎわいの空間』として、阿賀野市の産業や観光の活性化及び都市農村の交流拠点の形成を図り、地場産品等販売スペースや飲食スペースでは地域の農産物などを中心に取り扱い、観光案内所では、市内観光地（瓢湖や五頭温泉郷など）と連携し、情報発信を行っている。

施設の形状は、阿賀野市の自然や田園景観を、当市固有の自然的景観形成要素として捉え、当市のシンボルである五頭山をイメージした意匠を採用している。



道の駅「あがの」正面（五頭山をイメージ）

### 3. 事業の成果

開業当初、開駅1年で来場50万人を目標としていたが、令和4年8月4日のオープン以来、連日多くの来場者が訪れ、約1ヶ月後の令和4年9月6日には来場者数が10万人を達成し、令和5年4月6日には予定より4ヶ月も早く来場者数が50万人を達成した。また、開駅1年後の令和5年8月4日には、来場者数が75万人に達している。



開駅時の様子

### 4. おわりに

道の駅「あがの」は、阿賀野市では初となる道の駅で、阿賀野市民だけでなく、周辺地域の方からの利用もあり、人気を集めている。当該道の駅では、子供たちが遊べるキッズスペースや遊具類を充実させることで、多くの家族、親子連れが道の駅を訪れる目的のひとつになっている。このような施設と子育て世代に配慮した子育て支援施設を整備した道の駅は、子供を連れて利用できる安心材料として効果が期待できる。

賛助会員 エヌシーイー(株)